

## 2021. 11 月のブルーベリー農園その 3

晩秋の農園の里山の木立でヒヨドリの鳴き声がするし、遠くでキジも時折ケーンと鳴いている。耳から入る情報から夏の間いなくなったヒヨドリはどこかから帰ってきたようだし、キジは相変わらずこ

の地で健やかに暮らしているらしいことが分かる。目に入る農園の景色は落葉樹が紅葉と、落葉が並行して進む。ごそごそ動く農作業はブルーベリーの剪定、ピートモスなどの土の補充、枯れた木の植え替えなどを無言で続ける。この時期の作業はやはり気持ちがいい。県内の 2 号線で一番整備の遅れている安芸区に帰る道路の混雑を除けば。

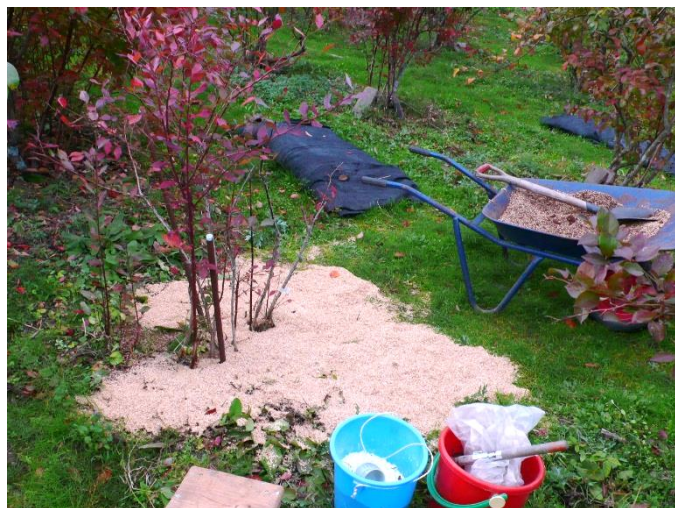


11 月 17 日 (水)

とにかくいい天気でいい青空といい雲といいブルーベリーの紅葉が作業をはかどらせてくれる。



まだ小さいブルーベリーの木が数 10 本ある。植えてからあまり手を加えていないので、株もとに強い酸性の性質を持つピートモスや硫黄の粉をまく作業を行った。

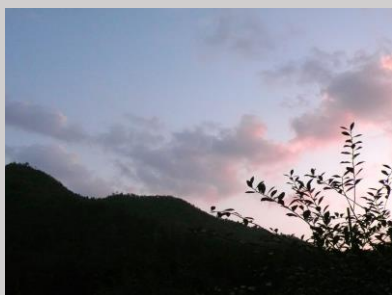


11 月 20 日 (土)

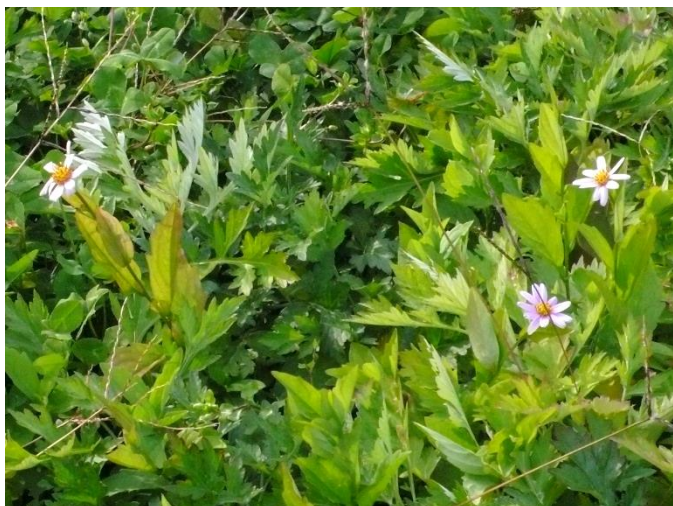
この日も 17 日と同じような手入れを行ったが、株もとがぼこっとくぼみができているところにはモミがらも敷いて平たんになるようにした。夏の大雨でくぼんだのだと思われる。



作業中に見つけたスマイレの花。晩秋だというのにまだ咲いている。ちょっと必死さを感じる。







11月21日(日)草を刈ったはしからヨメナも花を咲かせる。こっちは咲く季節なので切っても、切っても咲くたくましさを見せつけてくれる。



3段あるブルーベリー畑の2段目のブルーベリーの軽い剪定を続ける。おもに夏に実をつけた枝をカットした。



一番上のブルーベリー畑の一部は10年くらい前に拡張した場所となっている。ここにはブルーベリーを植えているいろいろ試してもなかなか根付かず、大きくなら

なくて枯れて枯れての連続となっている。

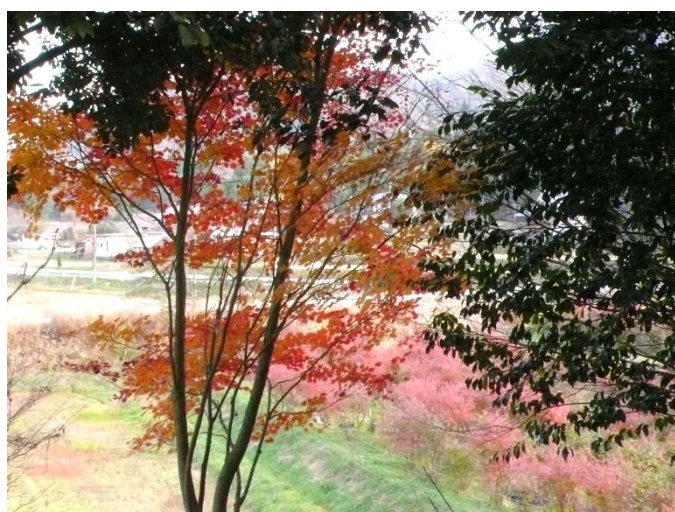


それでも何本かは育っているの、枯れたところに懲りずにまた小さい苗木を植える。



里山のブルーベリー園の周辺の雑木の中のモミジ

① 黄色



② 赤

2021年11月23日  
社会福祉法人安芸の郷  
理事長 遊川和良

《2021年11月23日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しております》